



6月の園だより



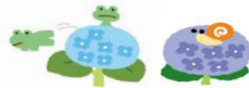
令和6年6月1日
目黒区立菅刈保育園長

朝、母と離れるのが嫌で泣いてしまった子がいました。保育士の膝に座っても気持ちが収まらなかったようで、泣きはエスカレートしてしまいました。「少し園長先生が抱っこしてもいい」と言うと頷いてくれました。少しずつ落ちつき始め、ブロックで遊び始めた途端「何作ってるの」と友達が声を掛けてくれました。その後も「こっちに置いたらいいんじゃない」「面白いね」と相槌を打ったり、褒めてくれたり、段々と二人の距離が近くなっていきました。そして「もう泣いてないね」とも言ってくれた時には「うん」と笑顔で答えていました。それからは何もなかったように、一緒に遊ぶ姿がありました。ずーっと側で見守ってくれた友だちの姿がありました。その光景を見た時に“即今只今”という言葉が浮かびました。先の事を考えてつい不安になってしまうけれど、そんなことは考えずに“今を一生懸命生きる”という意味です。目の前の子どもたちは「今」を生きているのだと改めて思いました。嫌だから思いきり泣く。楽しいから一緒に遊ぶなど思いきり気持ちをぶつけてくれていることに嬉しくなりました。今回、懇談会の中でも保護者の方から、大変な時期も「今だけだから」可愛い時期は「今しかないから」と言う言葉が多く聞かれました。今、この瞬間を子どもたちとしっかり向き合っていきたいと思います。

梅雨の時期を健康で心地良く過ごす為の配慮を行い、梅雨の季節だからこそ感じられる自然の恵みを生かした楽しい遊びを盛り込んでいきます。同じ遊びを通して「一緒に遊ぶと楽しい」と感じながら、友達との関わりが広がっていくような保育を展開していきたいと思います。



今月の予定



- すみれ組懇談会
- 身体測定（0、1、2歳児クラス）
- 身体測定（3、4、5歳児クラス）
- 眼科検診（全クラス）
- つぼみ組懇談会
- 歯科検診（全クラス）
- みんなで遊ぼう会（3、4、5歳児クラス）
- 耳鼻科検診（3、4、5歳児クラス）
- 避難訓練



～菅刈通信～

今月は園庭の様子と栽培物の紹介をします。



砂場遊びは水を使ってじゃぶじゃぶ楽しいな



大きくなってね



～0、2、4歳児クラスの好きな遊びをご紹介します～

つぼみ組（0歳児クラス）

保育士と一緒に「今からお庭に行こうね」と抱っこやおんぶで園庭に出ます。そのまま園庭を回りながら、「お日様が眩しいね、お花が綺麗だね」と見たり触れたりしています。マットの上に降りるとすぐに這い這いで興味のある所に向かう子や周りの様子をじっと見ている子など姿は様々です。目の前に落ち葉や砂を置くと手を伸ばして触れ、サラサラ、ザクザクなど色々な感触を確かめています。また、保育士が型抜きを作ると、それを崩す遊びを繰り返し楽しみ始めました。「崩れたね」と声を掛けると顔を見合わせてにっこりと微笑み、「もう一回」と指差しをしたり手で叩いたりしながら楽しい気持ちを表現してくれます。中には、砂の感触を苦手に感じていた子も、何度も触れる経験をしていくことで、自ら手を伸ばして触れに行く姿に変わってきています。一人一人の興味に合わせて好きな遊びを繰り返し楽しめるようにしたいと思います。



ひまわり組（2歳児クラス）

西郷山公園で「さくらんぼあるかな」と木の実探しに保育士を誘う子どもたち。真っ赤に熟した木の実を発見。その木の実をじっくりと観察して「赤いね」と呟いていました。保育士が「本当だ。前よりも赤い色になっているね」と声を掛けると、またじっと不思議そうに見ています。そのあと「美味しそうだね、どうぞ」と食べさせてくれました。それを見ていた子も「私も探す」と言って同じように拾うと「本当に赤いね」と変化を感じ、少し虫に食べられていることにも気が付きながら同じように見つめていました。そして「なんかりんごみたいだね。」と笑顔で教えてくれました。同じ散歩場所でも季節や気候によって様々な変化や発見があり、子どもたちはそれを見つけると目を輝かせています。これからも子どもたちと一緒に探索をし、それぞれが気付いたことを共有したり気付けるような声掛けをしたりしながら楽しんでいきたいと思っています。



うさぎ組（4歳児クラス）

暑い日や雨水が溜まった日には、子どもたちが水道から水を運んで砂場での泥んこ遊びが始まります。慣れたもので、砂場に入る時はズボンの裾が濡れないようにさっとまくり、わくわくした表情で水の溜まった中へ入って行く子どもたちです。砂場いっぱいに入水を入れると、海や川、池などをイメージしながら水の生き物の形の砂場遊具を水に浮かべ、シャベルや柄の長いスコップで魚をすくって「釣れたー」と喜び合っています。また、魚に手が届かないと長さ1メートル位の板を運んでくると橋にして、手が届くようにしています。さらに「もっと川を深くしようよ」「じゃあ、大きいシャベルを持ってくるよ」と遊びが展開していきました。子ども同士でお互いのイメージを伝え合いながら、友達と一緒に工夫したり協力したりして遊ぶ楽しさをより一層感じています。一緒に遊ぶ楽しさを大切にしながら遊びでの豊かな経験ができるようにしていきたいと思っています。

